

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりがおつとめに真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
1月号

立教百七十年

明けましておめでとうございます

昨年は大変ご苦勞さまでした。一月早々、三年千日仕切つての成人の歩みの総仕上げとしての教祖百二十年祭を、喜びと感謝の心一杯に感激の内に迎えさせて頂きました事は今もなお心に残っており、皆様方にも同じ思いの事と拝察させて頂きます。そしてその感激の心そのままに「一年間通しておおが賑わうように」との親の声に添って、毎月一千人のおおが帰りを目指して皆が心一つに揃えて努めきる事が出来ました事は誠に嬉しい限りでございます。只昨年一年間の帰参者数がおよそ一万四千人でございますので、月平均でいえば一千人を超えた事にはなりま

すが、一千人に届かなかった月があった事も確かで、その事が少し心残りの感があります。

しんぢつの心を神がうけとれば
いかなぢうよふしてみせるてな

五―14

親神様・教祖に受け取って頂ける
眞実がほんの少し足らなかった、と
反省をしております。

次の塚(教祖百三十年祭)に向かつての歩み出しの年と位置付けて頂いた本年であります。しっかりとした歩み出しにする為には、はっきりとした目標を定めて取り掛かる必要があります。

眞柱様は昨年の秋の大祭で「教会

の常時活動はつとめと布教」と明言されました。次の塚を見据えてのお言葉と思わせて頂きます。

その思いにお応えする為、笠岡としては教祖百三十年祭目指し部内全教会に於いて「おつとめ奉仕者の増員」を目標に定めて努めさせて頂きたいと存じます。その実現の為には布教は不可欠でありますし、道の後継者(おつとめ奉仕者・眞実の人)育成の為には一人一人がわずかでも日々の眞実の積み重ねをする事が大切であります。

何卒笠岡の理に繋がる皆様方におかれましては、年祭活動で培った「神一条の精神」「ひのきしんの態度」「一手一つの和」の心で今年一年、成人の歩みを進めて下さいますようお願い申し上げます、年頭の挨拶とさせて頂きます。

笠岡大教会長

上原理一

4月9日付『産経新聞』紙面から(大阪本社14版社会面)



第5回 中田厚仁さんの事件に思う 「たすけ心」とは



立教156年6月6日号

天理大学教授 上原 豊 明

四月八日木曜日、カンボジアで国連平和活動のボランティアをしておられた中田厚仁さんが凶弾にたおれた。謹んで深く哀悼の意を表すとともに、我が国の国際貢献の上にあら若い命が消えたことを厳粛に受け止めたい。

中田さんは一九九一年、大阪大学法学部の卒業。その年の七月、他の国連ボランティア三十人とともに、カンボジアに赴いた。日本での将来を約束されていたであろう二十五歳は、あえてカンボジアの人々とともに、戦禍で荒廃した国土に新しい希望の芽を或長させたいと、飛び込んでいったのだ。あくまで、一介の市民ボランティアとして。

この事件の後、自衛隊問題も含め、さまざまな議論が巻き起こった。今回の事件は、日本人が目をつぶっていた事や知らなかった事など、実にたくさん課題を投げかけてきた。政治向のことについて、ここではとやかく申すまい。

考えてみたいのは、ボランティアについて。ボランティア・ワークと聞くと、アメリカでの生活が長かった私はすぐに、かの国で生まれた「平和部隊」を思い出す。ケネディ大統領の就任演説での名言、「国が君にできることを問うなかれ。国に対して君ができることを問おうではないか」から生まれた、若い世代の社会奉仕団体である。

この平和部隊によって、多くのアメリカ青年が若い生命とエネルギーを、発展途上国等での奉仕

活動にささげた。日本にも青年海外協力隊という組織があり、多くの日本青年が発展途上国で活躍していると聞く。

こうしたボランティアの方々の苦勞を聞き、心の中を思うとき、平和と安逸に恵まれたいまの日本のありがたさと、人的国際貢献に積極的に関わり組む機運が薄いことへの憂いを覚える。

国連・日本政府は、この事件を機に、平和活動に従事する人々の安全対策を講じるであろう。そのことについても、とやかく申すまい。ここでは、信仰者の一人として、どう受け止めるのかとの課題である。

本教には、「人をたすけて我が身たすかる」との教えがある。中田さんが、困窮するカンボジアに注いだ熱い思いと行動を知るに及んで、この教えが胸に浮かんできた。

「へようぼう」の使命は、人をたすけさせていただくこと。先輩信仰者の逸話の中には、「我が身はどうなってもいい。ただ人さまにたすかっていただきたい」と、文字通り命がけで「おたすけ」に奔走した例は、枚挙にいとまがない。

しかしいま、私は、そんな思いをもって日々を生きているだろうか。この事件を機に、先輩たちの足跡を見つめ直し、自分の歩みを振り返ってみたいものと思う。そして今日の自分の歩みを、たとえわずかでも、親神様の「にんげんたすけたい」との思召(おぼしめし)に近づけたいもの。その新たな努力を始める句(しゅん)が、いま来ているように思う。

詰所



詰所での年末の風物詩、餅搗きひのきしんが昨年十二月二十六日、二十七日にかけて行われた。この二日間、年末の慌ただしさを厭わずひのきしんに携わった方々は、大教会長様を先頭に、老若男女を合わせ延べ五十人近く、五升餅計二十八枚の鏡餅を献納させて頂いた。和やかな雰囲気の下、今年一年の感謝とご恩報じを込め、喜び勇んだ汗を共に流させて頂いた二日間となった。

ひのきしんは、二十六日午後一時



より、笠岡に繋がる全教会より献米として頂いた餅米合わせて一石四斗（ポリタンクにして八缶分）の洗米から始まり、一昼夜水を貯め浸しておく。その後、石臼三台、杵九本、餅搗き器（捏ね用）三台、蒸し器十五台等々、下準備を済まし終える。夜には、恒例となった親睦会が開かれ、大教会から牡蠣、島根から蟹と差し入れがあり、思い思いに会話がはずみ、名物に舌鼓を打つほのぼのとした情景が現われた。



翌二十七日、午前七時半より餅つきひのきしんが始まる。寒気の中、餅米が蒸し上げられた蒸気が其処此処に立ち起こり、餅搗き器（捏ね方）から、杵を握る搗き手へと次第に熱が伝わり、捏ね手のかけ声に呼应し、場内は見ると内に活気に満ちた熱気へと変化する。少年会層の年令には、餅搗き器や出来上がった餅を小餅に丸める方へ、最初は初めて餅搗き器を使う子もいて、手付きがままならなかったが、一人平均二十八回



捏ねる中、見事マスターする子も出て来た。青年会層に属する方は搗き方に、一白兄弟で担当し搗き切ったグループもあった。特筆すべきは、やはり大教会長様がこの青年会層に混じり、大白担当で、搗いた餅二つを一つに合わせる搗き方に入り、次々と見事五升餅へとまとめ上げられる。壮年層（青年会会）は、捏ね方、仕上げの鏡餅作り、或いは、蒸籠へ熟練の感と経験で、餅米を均等に二升五合に測り、蒸し器に掛けて



いく。熟年層の方々は、詰所主任先生を中心に、蒸し上がった餅米をひっきりなしに、運搬し餅搗き器に投入される。女性の方々は、小餅や出来上がった鏡餅を団扇で冷ます方へ、誰が役割分担するという訳でなく、進んで適材適所に各々が分担し、役割を發揮しながら、一手一つに勇んで取り組む姿を垣間見ることが出来た。

実質七時半より始まったひのきしんは、年々ひのきしんに参加される



人数が減少傾向にある中、遅くなるだろうと予測されたが、例年より早く、十一時にはその他溝掃除等ひのきしんを終え、怪我無く、無事終了させて頂くことが出来た。昼食には、詰所のはからいで、取り付けのお餅を頂き、うどんを振る舞われた。

今回は年齢層の若い方々の参加が多く見られ、熱気ある新たな息吹を感じさせられたひのきしんとなり、次代に繋げていく行事として取り組ませて頂きたい大切なひのきしんの



一つであることと、参加される輪が一層広がって行く事を願う。

——明治初年、教祖ご在世当時、お節会が始まり、教祖のお心「喜ばさずには一人もかえされん」と、子供を迎えられる教祖の親心に少しでも応えさせて頂きたい。そして、逸話編「七 真心の御供」に見る如く、親神様、教祖の御守護により何はさておき、新年を迎えさせて頂くことの出来る喜びをかたちにして子供へできる好機であると思わせて頂く。

(管理部員 中村 義太郎)



今年も「ヨシウネ♪」

(詰所主任 吉岡 壽)



談話室



教祖年祭の想出(最終回)

神村分教会前会長 下田 輝夫

東西礼拝場が完成し、上段が改修されて、かぐらづとめを拝する事が出来る様になって迎えた教祖百年祭、一月二十六日から二月十八日迄の二十四日間に亘ってつとめられた年祭は、これが最後でした。

教祖百年祭は一月二十六日一日だけと云う事になり、此の一年を年祭の年として、おちばを賑やかにとの御本部の思召でした。

教祖百年祭を迎える前に、前真柱様には御身上になられ、その中を出来る限り教務の上におつとめ下さいましたが、年祭を一日だけと打出されていてよかったナーと私はつくづく思いました。これも親神



様の思召しだと、もし今迄通り二月十八日迄おつとめになるとしたら、真柱様の御体はとも耐えきれないと心配したからです。一日だけで本当によかったと思いました。

此の一年おちばを賑やかにと聞かせて頂いた時、単細胞人間の私は、月次祭にも大祭同様、献灯、名稱旗を立てて頂けたら、年祭の年らしくてよいのに、一寸淋しいナーと云う気がしてなりませんでした。毎月出すとなると御本部としては大変な事だが、でもそうして頂けたら本当に年祭らしくて有難いナー嬉しいのにといい年ら、その年も無事に過す事が出来ました。それから十年、年

を取るのと一年がアツと云う間に過ぎ去り、十年も夢の間に過ぎて今年、教祖百二十年祭を迎えさせて頂きました。四十年余つとめさせて頂いた教会長を長男に譲り、フリーの立場で迎えさせて頂く初めての年祭、登殿参拝もなく気楽？に参拝させて頂く事が出来ました。

今年もおちばを賑やかにと聞かせて頂いた時、急に十年前の事を思い出し、今年は真柱様が替られて初めての年祭

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

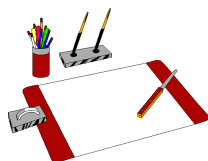
字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先



下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@kcv.ne.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

であり、今年こそ年祭の年として特別に毎月献灯、名稱旗を立てて貰えないものかと、それにはどこへ御願ひしたらよいのか、大教会長様を通してか、教区長先生か、集会員の先生を通して御願ひすべきか、そんな事を考えていたら二月からの事にはとても間に合はない。いっその事、真柱様に直接御願ひした方が早いのでは……と、身の程も立場も弁えず、思い切って真柱様に直接御願ひの手紙を差し出さして頂きました。

年祭の年として特別にこの一年月次祭にも献灯名稱旗を立て、頂けないものかと、教会長四十年余つとめさせて頂いて引退した年寄りの願ひとして、又どう思っているのは私一人でなく大勢居られるものと思ひますと書きました。私如き者の出した手紙、とても真柱様の御目に留る事はないと思ひて居ました所、三月半ば頃内統領先生から手紙を頂き、「真柱様から貴殿の云はれた事を聞き、おやしきの事は一切内統領の責任なので、各部署の方々と種々検討協議の結果、今の本部としては年五回(元旦祭、春季大祭、誕生祭、子供おぢば帰り、秋季大祭)出



すのが手一杯であると、電気の配線からして大変な手間であり他の行事の旗を出したり等々、詳しく内情を説明して下さった上で、毎月出す事は出来ないといふのもった御返事を頂き、感動するやら恐縮するやら、お忙がしい御立場の真柱様が手紙を見て下さり、しかも何とかならないかと、内統領先生に伝えて下さり、色々検討して下さいの上で御返事を下さった親心に感謝感激、早速真柱様と内統領先生に御礼の手紙を出させて頂きました。末端の一個人が御願ひした事も、ちゃんと聞いて下さったと思うと有難いやら勿体ないやら涙が出ました。

親なればこそ、この親心に何としても御応えさせて頂かなければと、勇気百倍心の底から勇んで参りました。

今年だけでなく来年も再来年も、年々お地場が賑やかになる様、小さな力でも一人くが努力する事によって実現するものと思ひます。

お互いに心勇んでしっかりとめさせて頂きましょう。長い間お付合下さいまして誠に有難うございました。心から厚く御礼申し上げます。

【16】みかんが一つ あなたならどうしますか？



たとえば、3人の子供に、親がみかんを1個ずつ与えたとしましょう。1人はその場で食べてしまい、1人は後の楽しみに取っておきました。もう1人は友だちに分けてあげました。与えられた環境、条件は同じでも、その中で、どういう生き

き方をするかは、われわれ個人個人にゆだねられています。心の自由は各人に与えられています。その自由に使える心でもって、私の人生をどう生きていくか。忘れず心がけたいのは、1人残らず陽気ぐらしするという、神様が最も喜ばれるところへ近づくことなのです。

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 謹んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙なく生活させて頂いている内にいつしか立教百六十九年教祖年祭の年の瀬を迎えさせて頂くことが出来ました事は誠に有難く勿体ない極みでございます

改めて今年一年を振り返ってみますと 年明け早々教祖百二十年祭を喜びと感謝の心一杯に迎えさせて頂いた私共は その勇み心を絶やす事なく親心にお応えすべく「一年間を通しておちばを賑やかにしよう」を合言葉に「毎月一千人のおちば帰り」と「五十万軒にいがけとおさづけの取次」を実践項目と定めて成人の歩みを進めてまいりましたところ一千人に届かない月もありましたが 一昨日までで延べ一万三千人余りが帰参する事が出来ました事は誠に有難い事と喜ばせて頂いております 只世上の状は景気が上向いて来たとはいえ貧富の格差が広がり 心の荒廃はより進み特に親子間での命に関わる出来事がある等 何ともやりきれない気持ちになる事が多かった一年でありました そんな中 私共は一年間を通して親孝心一筋に勤め切る事が出来ました事は誠に有難く 今年一年賜った御守護とお導きに改めて心より御礼申し上げますと 只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめ手をどりをつとめて 本年納めの月次祭を執り行なわせて頂きます

御前には年の瀬の慌ただしさ、寒さ厳しき中も厭いませず 今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し

上げます

さて今年も残すところあと十日 年祭の年として最後までおちばを賑わすよう勤め切らせて頂きますが 年が明けますと次の塚教祖百三十年祭に向ける新たな歩み出しが始まります 真柱様から「教会の常時の活動はおつとめと布教」とのお言葉を頂戴し 表統領からはそれを受けて 次の塚に向かつての具体的な進め方の所信表明を頂きました その思いをしっかり受け止め 確かな成人の足取りにすべく今から心の準備も整えさせて頂く所存でございます

何卒親神様には世の風潮に流されそうになりながらもしっかりとふんばり ご恩報じと親孝心一筋に成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に世界一列救けたいとの親心をお現わし下さり 世界中の子供が真実の親心に触れて少しでも心が澄みわたり明るく陽気な年末年始となりますようお導きの程を 一同と共に謹んでお願い申し上げます

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌一月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「友」、選五十句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていただきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠 東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子

遠き師の言葉重たし

「みちねとも（友）」

第 7 9 1 期 修 養 科 募 集 要 項

*修養科期間

立教170年3月1日～5月27日

*教 養 掛

3ヶ月間 山 野 弘 実 (大教会役員・上 下 分教会長)
 1ヶ月目 枝 廣 隆 文 (東福山分教会長)
 2ヶ月目 室 悦 子 (錦 備 分教会長)
 3ヶ月目 掛 谷 宣 和 (坪 生 分教会長)

*募集要項

- ・志願者は、3月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
- ・2月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、5月29日の昼食後に解散。

*教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

*参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

*携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

*服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

大教会だより

◎登殿参拝(十二月)

神邊 小坂 静宏
東悠 田林 久嗣
葦陽 笹尾 正治

美之郷 引野 福富士 東福山 鴨方 神免
桑田 鳥井 藤本 藤井 枝廣 虫明 石井
昭則 昭利 昭五 昭正 昭隆 昭好 昭美 昭守

今月から切り絵で表紙を飾っていただくことになりました。

佐々木ふさ子さん プロフィール

▶芦品分教会 よふばく。▶京都精華短期大学(美術科絵本専攻)在学中に切り絵を始める。▶日本切り絵協会会員。福山切り絵の会を発足、福山文化連盟加入。▶国民文化祭・やまぐち2006年生活美術展、切り絵部門で文部科学大臣賞、受賞。▶現在、福山市内を中心に切り絵教室を開くと共に、個展を開催、切り絵普及のため活躍中。

11月3日～12日
第21回国民文化祭
7月に作品(長さ50×59
cm、短辺41×48cm)を募集
し、押し花は47都道府県か
ら計1418点(うち県内
554点)、切り絵は29部
道府県から計87点(同

国民文化祭・やまぐち2006生活美術展で
展示される押し花10004点と切り絵175点
が公募の中から集まった。最高賞の文部科学大
臣賞には、押し花部門で村本敏子さん(岩国市)
の作品「仲間だ」、切り絵部門は佐々木ふさ
子さん(広島県福山市)の「山の小母さん」が
輝いた。



佐々木さんの切り絵「山の小母さん」

文科大臣賞に3人輝く

下関「生活美術展」・11月3～11日

萩「陶芸展」・11月3～12日

読売新聞山口版に掲載された記事

◎直属ひのきしん特別隊

自 立教170年1月11日
至 立教170年1月20日
久松 中村 剛史



おもしろきこともなき世に
おもしろく・・・

ご存知、高杉晋作の辞世の句であ
る。

亡母は歌が好きで、石川啄木の
働けど働けどなお我暮らし

楽にならざりじつと手を見る
などをよく口遊んでいた。

冒頭の句も母から聞き憶えた歌
で、

面白き事の無き世を面白く

棲み為すものは心なりけり
と思っていたが、実は「こともなき
世に」であった。しかも、下の句は
「高杉のものではなく、看病してい

た野村望東尼が付けた」という説明
が載っている。

何がホントの事か判然とはしない
が、便利な世の中になったものだ。

何が?

こういう(分らない)ことは、イ
ンターネットでちょちょいと検索す
れば、あつという間に答えが出る。

教祖は、袖の中から花畑をお見せ
になったが、私共は、小さな箱(パ
ソコン)の中から世界中を覗くこと
ができるようになったのである。

しかし、自分で世界を覗いている
と思っていたら大きな間違いで、実
は、世界中から自分が覗かれている
のである。

何とも、恐ろしい世の中である。
しかし、考えてみれば、自分が覗
かれているのは今に始まったことで
はない。

開闢以来、私共の腹の底は、常に
見抜き見通しの方がいらっしゃるの
である。

お互いに、覗かれて恥ずかしくな
い心でいたいものである。(お)